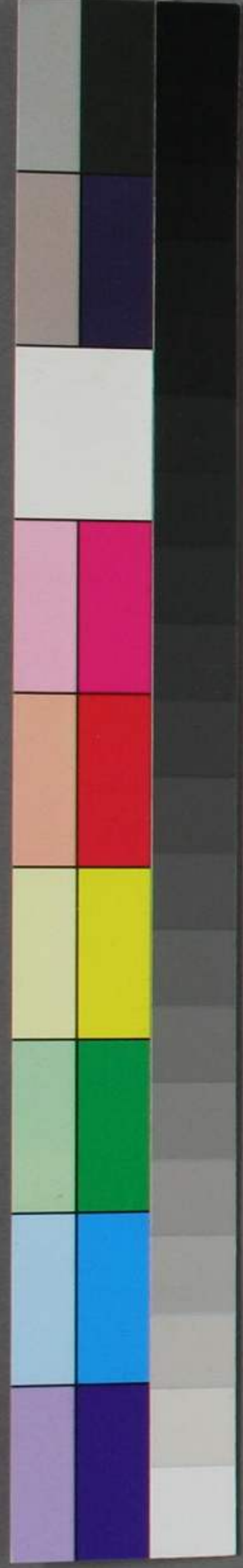


仙居方

中下

中武日
137
2











秘笈仙鼎方卷之中

桂川氏家方

○イニク丑ニト之部

イニク丑ニトウケヒニヤクニニ部性平

治癰疽瘡癤癰疽流注鼠瘻癰疽諸般痛毒每各患  
瘡五疔七癰馬瘡牛領等症不問歲月遠近不拍  
陰陽虛實或癰穿脫疽烈毒癰化不能轉側或  
楊梅番花昔毒沿開遍身腫爛常出黃汁時流  
膿血臭穢襲又者綿敷一次臭穢加忌最為妙  
氣治唇疽牙癰及齒齦成膿剥露潰蝕者此方



除瘀血去惡肉之神方也通變妙用不可備述

アセイニ十五兩 木一又キ 十三兩半

スハニスクルウニ五兩ヒツトルヨトルニヲカアリセ

石ホ一又キ アセイニニ味煎化餘茶細末下急手

攪勻茶色潤黑屑度下火○癰疽瘡背弩肉

甚衆者コムラフメニト等分摺化蘸綿絮入瘡内

○丹疹火泡及小兒頭瘡如前方摺化蘸軟綿而

方寸餘許擦瘡上○手足風癩乾癬等搥破而生

白屑疊帶膿傳妻不禁時作痛痒者ヤニフウ

フウニタリイニ等分摺和輕々塗之乃將新薑煨

火焙患處○陰囊濕痒因搥破而傳溲股間牽連

時々癩痒不能息者フムラフメニト等分化開浴後頻

頻塗過或加ハレニフウツカ亦可

○又方 性生治同上

スハニスクルウニ七兩半 アセイニ二兩半

木一又キ 二十兩 アセイニ三合

石ホ一又キ 一味將文火煎溶候鍋面黃白浮漚湧出

將雞翎徐拂去スハニス アセイニニ味細末下如烟

氣沸騰則急下火研開再下火下アセイニニ搥

和此方平昔所調煉之分量也



○イニクニトカニフラトニ 性寒

治諸毒熱時遊而風瘡熱癩火泡香解軟癩湯  
洗者傷新久瘡並神効癰疽癩疥北月惡疔腫結恐  
毒苛烈四圍紫黑痞癩癩起者四畔傳之則令毒  
氣不致走散

ヲーリカラフスニ西半 セイライフ 丑西

ヲーリロロロニ ニ十四西

石三味煎化下火於冷

セルーホ 十兩 カニフテ 三之

石三味細末將搗木槓如低昂米雀不佳至平冷而膏成

○湯澆火瘡或下疳陰蝕花癬等症膿癩浸

淫不息者イニクニトカニフラトニ

煎敷之○小兒流涎作爛或兩腿間濕爛者

ハチナアトクワ等分傳之○ハチナベルフスニテ

リイ子等分テーリロロロニ少許搗化治諸瘡

頑滯膿癩稀稠經久不奏印者

○又方 主治同上

○ヲーリカラフス ニ十四アキリキヤルルフ

ヲーリレヌホニス 各二十兩ウツテワスニ十兩

石煎化下火候冷



ホル子ルカニフウ 六兩 セル一サ飛過 三錢  
右ニ味細末セル下セル一サ將拂條研合次下フヲ

○又方

○ホル子ルカニフウ 三錢 ヒツトルヨールニアルビイ  
セル一サ 各八分 ウエツテハニフーヨル一個

リイタリキリヨニアウリイ 一錢 ホー又キ 一兩  
ヲリリレヌボニス 四兩半 アセイニ 二兩半

石アセイニヨリホー又キ 三味煎化餘藥 一兩  
下去火於冷カニフウ ウヌツテ下

○又方

ヲーリロ一サ 二十六兩 セル一サ 十兩  
ウエツテワヌニ兩 ホル子ルカニフウ 三錢

ムスフヌ 三錢

右煎煉如前法候冷後カニフウ ムスフヌ入

○イニクエトエラートム

治結核癰癩失榮癩贅魚口横痃不問膿之否

成效

カヤホルフ 二十兩 ホニフス 五錢

右ホニフス茎葉俱剉アキリギヤ煎開浸之及將  
重層紙固封罐口露曝日下大凡十日許濾去



荖葉

セーモニラーベ 三兩 コムヲリハ又二 二兩

ルワス 二兩

石ワス一味共煎茶之類化細末ラーハ又ム  
次第下如火猛烈則油葉躍沸輒溢鍋上急下火呵  
氣以消之○ラーリヲハハロム 一錢半 化合專治奶  
瘋肉龜 龍花諸瘡懸癰陰毒○カリヨツベルナテ  
シニ細末化合馬口瘡癰一切核原因寒冷所起者  
及節骨痛印最奇○イニグエトテヤルテイヤ  
筆介煉化治諸結腫未成膿者加テーリヘルヘイ子

亦詳傳痔瘻脫肛印最捷

○イニグエトテヤルテイヤ 性温

治癰疽瘰癧疔瘡發背各腫瘍婦人奶瘋  
及內外諸痔凡大瘡勃起之膿未成者此方持可  
特温潤而有推陳生新之功兼治折橫損傷累年  
痛楚不定或老人元氣衰憊腫瘍敗露或骨節  
拘痛不能舉動者

テトテキスナルイヤ サニブイニ各二兩

吞三味咬咀將清水三升煎取其汁

セーモニ子キレイニ セーモニ



右三味極末將煎汁拌合令如稀糊收貯磁器  
密封其口歷七日後以文火徐々煎開而去其水

氣  
コムテレメニテイ十 十西

ヲリアセト一十二西ハルス十二西半

セイヤイブニ十二西半

右四味別用淨罐煎化濾去滓與煎茶摺合將  
柔溫老炭大煉以紙係蘸茶中試燃看之則  
不爆爲度下火○イコクイコトエラトム等分  
研合專治諸疔脫肛如穀道腐爛作痛將綿絮  
攤膏送入孔中不候數次其痛如失最爲妙々

○又方

北方大温專治骨痛筋攣去年折傷  
車馬墮作

ヲリアベツテニカニス ヲリアカアコ

ヲリアアフテン ヲリアルヘイ子

ヲリアカモメル 各五西

ヲリアカエアルエトル ヲリアロサーロコ

ヲイリレリヨール 各二西半

○コヲリスアコ コムテレメニテイ十各五西

本國セイヤイブ 羊介 フラニタウイニ西



石同煎濾去渣

○又方

セイモコリイ子    ゼイモコ子キレイ子各四兩

右ニ味將ヲリリカモメル煎熟合如稠糊

ヲールヲ又 五兩    コムテニメコテイナ

ヲリリカモメル    ヲリリロサロコ

ヲリリシヨルコ

石果煎其煎煉如常法○鹽什折傷開筋之病  
痛不能轉側者セイモコ子イ子セイモコ子キレ  
イ子ヲロリリスカモノルフロリリスロサニワロリ

スレリヨイルニ右各一撮清水ニ并煎取汁蘸軟  
綿布重層敷患處令溫暖透肌肉如此數次  
此膏將方寸是後置患上雙手且摩熱急々  
擦攤痛處一日一換甚神効

○イニクエトスタラコトニス 又各スクニゴスト性平

治癩疔疔痛毒諸般瘡止之痛生肌復瘡疔達

滅癩痕

セイライイフ    ヲリラセトナ    ヲリリカラス 各五兩

クイルトヘルコ    五錢    コムテシメテイナ    二兩半

右煎化濾去滓



サシコスタラブリーヌ 五錢  
メイニイ 五兩  
右ニ味細末徐徐入煎茶中以柝篋拌勻再煎過膏成矣

○又方

メイニイ 十兩  
ワス 五兩  
サシコスタラブリーヌ 五錢  
グーリカラフス  
アキワキヤホルマ 各二兩半

右煎煉同上放冷後辰砂五錢加尤佳

○イニクエトニツテルトニ 又各一兩  
性寒

治丹煉赤瘤小兒癩疹湯火傷瘡蛇虫咬蝨毒

癰疽發背四邊延開不斂者

リイタリキリヨムアルカニテイ 六兩  
アセイニ 各十兩  
セルーサ 各十兩

右ニ味拌勻收貯罐內日之以篋抑頻捏令如

黏糊經四五日後

グーリカセト 二十兩

右細細透入以手擦和少間光澤隨手而滿  
罐面後經兩日自然凝結膏成始終不用新

炭○又方

リイタリキリヨムアルカニテイ 三兩



リイタリギリヨムアウリイ 二両半

ローサアセイニ 一合ニタ

右フロリスロサロニ一撮 醜醋ニ合浸清七十日

置之晴明顯處攪取一合ニタニ味之リイクリ俱

細末蒸入醋中歷信宿

ローリロサロニ 二両半

右味與上ニ供化開用柶篋頻攪則沖光

鮮明澄器上時

フロニターコ ソラトロニ 各ニ合ニタ

ニ味俱絞取汁亦投入上ニ中

シヨルイニ

紫沖漸々凝結膏月已成之際下之始終不用  
出灰火

○インクアニトロサロニ

治遊面風癩被刺粉花細粟目者疹頭上白  
屑疊重飛起不止者專寬筋寧定疹痛為  
至常傳面上美肌膚增顏色每有座癩之患

アキソキヤホルフ 五両

右一味煎滾下火

フロリスロサロニ 二両半



石本莖葉漬于上藥中淨尾紙盛貯固封其口  
火之雙元熱火日下露曝五日瀉去渣

ケールワス

右寒暑候所宜隨老稀而倍之原未温火上煎  
化成膏月○男婦面上細瘡愈而後生者辰砂少  
許加塗

○イコクエトローサベシイリヤ

去癩殺毒挑膿定痛

フローリスロサロコ

スハコスクルウコ

各二兩

ホー又キ

アセイコ

各三兩

右口サロコホー又キアセイコ俱煎沸瀝而放冷又  
以之為極細末徐徐下入拌和再上原未温煨火候  
色變枯黑為度

○イコクエトトテキステイヒ 性平

治一切種瘍熱氣延蔓浮腫水回起痛楚難禁  
及金刀刃傷竹木鍼刺車馬隨外跌躓損傷杖  
瘡向死者斂之嫩生肌定痂乾足結湯澆火燒等  
皆效

クローリスホニ又

コムテシメニテイ十

各五兩

セイトライフ

二兩半



石煎化瀉去滓

ヲリバ又コ

ニキ

コロコイ

二両半

石再三節過為極細末投入上甘茶攪勻放冷

へツタアコヨリヒー之固去白

コロク又ヨリエニターリ

ニキ

石ニ味加入用柶為地頻々拌和膏成○金刃刀斧  
傷大肉大骨受傷及竹木鎗箭鏃之所刺鮮  
血跳出不止者用軟綿糸繫為丸以膏塗捏送  
入傷口將アコハラストカラサテイロ權布覆後其口  
以單綿長帶幅寸許縱橫纏繞而取糸丸之戒輕

動作○折傷損傷跌蹶隨什桃北膏月異患

上摺開而普捺用アコハラストテニスイフニ攤布

覆貼足痛苦散青班入妙々

○又方

コムテレムニテイ

半斤

右將ロトサワト口礮和淨紙收貯經宿指水

俱疑加玉盤永歌器去水

へツタアレヲーレイ

四筒去白

カラコラ

タイラセケラー夕各一両

石、タアアレ入上甘茶極カ而魚之礮開餘二味為末下



之以文火煎化候水煙去盡而為膏成之度

○又方

コニテシメニテイナ 一兩ヘツタアシヲ一ヒイ 四箇  
石コニ味清水洗淨候清澄頃而去水與へツ  
タアレ研化

ヲ一リロサ一ロニ 一兩ヲ一リス一タマニトロニ 一兩  
コロ一リスヲ一リニタ一リ 五匁

石之味入煎蒸類々研合膏成炭火不用

○ヲ一リアマニト口近年蠻船所轉輸甚  
少故ヲ一リイヘリフニ代之

○又方

コニテシメニテイナ 一兩ヘツタアシヲ一ヒイ 四箇

用口サワ一ト口洗如前方

ヘツタアシヲ一ヒイ 一兩ヲ一リス一タマニトロニ 一兩

ヲ一リイヘリフニ 五匁

石煎方製同不用炭火

○又方

コニテシメニテイナ 一兩ヘツタアシヲ一ヒイ 四箇

石投矣冷水中研開

ヘツタアシヲ一ヒイ 一兩ヲ一リス一タマニトロニ 一兩



前茶中以柘桑抵脚研勻

フラニタウエニ 八分五厘

又如前

ホータキ 各八分五厘

カニユスタラフ、ニス 極細末 メラ 同

ホー子ヨ 同 ヲリハ又ニ同 各三分五厘

右次竹下之将文火之且取老者煉之其令藥物至

画沸以柘棒徐々破溶候油膩成和融下火

○イニケエトトバニリフニ

性温

治癰疽發背癩毒甜瘡一切腫瘍此方自  
已立知之至得他之藥物則能膿逐毒之功實

爲百藥之杖也須試知

チー儿ワス 各五厘

ハルス 四兩 九リリホルトカル 十二兩半

右五味慢火同煎去渣取冷膏成矣○瘰

癧瘰核或跨馬橫痃便癰魚口等症日淹不消

且難得膿者將薄紙攤此膏貼瘰癧頭尋用上ハ

ラストヤキ口ニ綿布攤開重層覆後貼不候信宿

必潰 大瘡潰後膿癩浸淫者イニケエトアホ

ストロールの葉分煉化貼膿口或縫入口内日換數次

膿盡肌生不做他藥爲妙○下疳白蝕形如爛淚



香用コムラフメト洗過患處ハレトセイルメス取此膏  
之分之二而研合敷之若膿血淋漓則更換後如初  
○又方

セイライフ 七兩半      ヘツキ 五兩

ハルス 二兩半      コムラメテイナ 二兩半

ヲリリスオコス      ナ西      ヲリカフフス

アキワキヤホルフ      各七兩半

右煎煉同上

○又方

ヘツキ 二斤      ハルス 二斤五兩      ケイルワス

アリニケヘルセイ      各十二兩

右煎煉如初

○イニクエントアホーストヒルシ      性冷

潰瘍已成瘻肉未消痛毒猶存此方主之兼治眼  
縁箇毒鼻痔瘻肉耳底疔垢變腐方瘡眼耳  
龍耳者

ヲリアセトナ      三十四      アキツキヤホルフ      三十五

アセイニ      三合      ケイルワス      一介

コムテメテイナ      七兩半      ハルス      二十四

右六味同煎濾過去滓



リイタリキリヨムアルカニテイ 有り文  
メラ 各四

右細末投上藥中以柶槐長條拌勻

スハニスグルウコ 七兩半

右細末上藥火氣息後下之

○此膏イリクイリスワツビリマト一等分研和備穿潰  
代鍼之用一切漫腫在頭或惡毒赤腫或元熱失  
涼雖大膿漸成其上皮頑牢而不能潰或鍼砭  
不耐其痛者用上藥黑足大許攤單紙貼在瘡  
頭膿孔正處次將正ハラストイヤキロツムコムフ或

正ハラストムスラキニフス或イニク正トハミリフコ

メラ ガルハスニ 各二兩 へタリヨム 一兩半五錢

右丸味用陳米醋五合浸漬經三七日煎溶

スハニスクルウコ アリストロキヤ 各二錢

リイタリキリヨムアルカニテイ 二兩三錢

右三味細末入上藥中拌勻文火煎過膏成矣

○又方

ウイロク ヲホハナークス ベタリコム

アモニヤクニ カルハスニ 各五錢

右五味醱醋浸一周時搗碎



リイタリキリヨムアルカニテイ

コムテシエテイナ ケールワス 各五兩

石投入前葉徐々碾和煎

スハスクルウニ フタルコアセイニ 各五錢

右三味又同煎候葉油感溶化下火

ウトデキスマリストロキヤ 五錢

細末上サホ火乾去後加之此方和蘭大方分量ニ

○イニクエニトウリスト

性寒

風熱更毒亦遊天泡黃水漆瘡松皮癩瘡湯

等削攤布覆貼以綿布單長帶卷緊而縛定

頃刻微覺痛痒經宿而痛止痒定乃取去膏

將一尖兩截之鉞鍼而刺其藥痕更無覺知

痛者上皮嫩者不覺鍼刺自穿其膿口之淺深

廣狹者乃因膏之厚薄與大小也總無所投

不知意者是我家大秘々神法也諸瘤結核馬

カ氣癭貼肉癰疽風熱毒腫衝疽脾發黃瓜

搭串等上肉平坦而根底肉熱心腹攻刺形骸

黃痿醫西禱百計無應効者實生死所係也此

市一施則後元之切預可計日矣萬年相傳謹勿

失○ヒツトルヨトルニアルヒイ等合研和切如上方然藥



毒甚苛非穩潤而得巧之屬○ヲトリロサロニ等  
分和開治耳内諸痛瘡捏綿絮而經入或側臥  
而瀉人亦可

○又方

コムテシメニ テイナ

セイライフ

ハリス 各三兩

アモニヤクニ 二兩

ヲホナナリクス

ニ錢

マステキス

火燒灼歟赤腫痛者皆治

セイライフ

ナ兩

ヲトリロサロニ

ヲトリロイ子

各三十三兩

右之味煎化

ラーヒスカラニナリス

タイラセケラトタ

各八兩

リイタリキリヨムアウーイ

六兩

カニフアラ 二兩

右為極末上葉中投下隨冷膏成再不用火始終  
繙木勿停手

○又方

アキソギヤホルコ

セイヒ 十五兩

ソート 二兩半

ヲトリニスホニス

ヲトリロカニフアラ

スーアツニト

各五兩



右將慢火煎化

ケールロス 十五兩

別用淨鍋煎滾投入上藥

○又方

ヲーリリイ子 七兩半  
ヲーリロサロ

ヲーリヒヨール  
コムテシメテイ十各五兩

ヲーリハ又之 五錢  
リイタリキリヨム 二兩半

ホールスアル之ニヤ 五錢  
カニフヲ 三錢

ウアツテワス 十五兩

右煎煉同方

○イナガエトホツホーリヨム 性平

治丹燥赤瘤瘡火遊走散珠瘡子天行斑瘡瘟

熱粟疹因搔爬開者

ヲーリハツハフラス  
ヲーリマニタラフ

ヲーリマス名メ  
ホーリソラア子

ホーリカツルヘ子ニス  
ホーリヒヨール

セヌイセイヒ  
アキワキヤホルフ 各八兩

右同煎濾去渣

ホーリホツホーリヨム  
ロサワートロ 各三兩

右ホーリ爲細末與ロサ俱煎滾濾去渣上藥



中投下

○イニクエトアールカツヒス

性大寒

勢之瘰癧包或累年折傷甚蘆節白脫因替熱而作痛或墮落悶挫欲絕者並效杖瘡搥痕紫青作敗關節拘攣麻痺本痛者一吹得即脫為妙

イニクエトカニフラト

イニクエトテイト

スアールフル 各十兩

アルカニチヒイ

三兩半

右礬化為膏不貸炭火

○イニカアニトレイフレイゲラニス

定疼癩消癩毒飲瘡口生肌膚

アールト 八兩

アールト 口サロ

アールト 各五兩

ワス

三兩

右四味同煎膏日成

○イニクエトマギスターリ

性温

治陰陽發背內外吹乳魚口便二癰諸結腫不拘症之虛實不問膿之成否皆效脚氣節痺骨節酸痛並治

アールトハニマルハ

フロリスアールトニイニ 各十兩

フロリスカモメル

リキリニヤ

各十兩



右五味爲細末

ヒークス

ウイニ

各二十兩

右五味以咀清水三大椀烹熟絞去渣取煎汁

ヲトリカモル

ヲトリレリヨールニ

ケールワス

各二十兩

右五味與煎汁俱煎合以下細末四味符煉過去

燻火

コロックスヲリエニタリ

二兩半

爲細末候膏冷下之○此膏甚而脆不易粘貼

煎煉之際コムテシニテイ十 十五兩 加可矣

○イニクニトアフリウニ 又各アロリロニ

性温

治刀斧刃傷身鏡箭鏃行木刺傷生肌止痛斂

臭口

チールワス

十五兩

ヲリイヘリフニ

七兩半

コムテシニテイ十

五兩

ハルス

四兩

右四味煎煉

ヲリハ又ニ

二兩半

コロックスヲリエニタリ 五錢

二味細末末去後下之

○イニクニトアツチヨニイラ

性平

治身體關節濕熱作痛白虎瘧節筋急酸痛  
青筋取系縮不能屈伸者候治折傷墮仆杖鞭



管槿疼痛發悶連年寒痛痺裂頭指者

ヲトリカモメル

ヲトリロニブルカールニ

ヲトリイヘリコニ

ヲウリイ子 各十兩

右四味煎火溶

ケールワス 十兩

コムテシメニテイナ

ヲトリアルト 各五兩

ヲトリヲハロム

ヲトリイトムスカート

ヲトリルヘイ子 各三兩半

右投入上藥煎過膏成

○又方

ヲトリカモメル

ヲトリテシメニテイナ

ケールワス 各三兩半

ヲトリイヘリコニ

ヲトリレリヨールニ

インクエニニヤルテイヤ

ヲトリヲワリイ子

ヲトリロニブルコロニ

ヲトリヲハロム

ヲトリルヘイ子 各五錢

右煎煉如常法

○インクエニトサルフライニト

治諸般瘡癩癰毒浸淫經久不愈者

ヲウリイ子 二兩

ニヨルヘニ 四兩

アルイニ 二兩

ソート 一兩

右四味煎火煉膏成矣



○イニクアニトメツキトシ

性平

治背癰七腫頭面五發十二疔腫七惡之陰疽癰穿  
脫疽火蛇穿穴腐發癩流毒橫痃陰蝕大風楊梅濃  
瘰癧癰疽等症潰爛不斂者專治諸疔苛毒煩  
亂不省人事者神效凡搗膿去腐枝毒消腫之妙  
無出於此方真瘡家之聖劑也

イニクアニトテキステイヒ

イニクアニトハシリコシ

イニクアニトアホーストロールシ

イニクアニトエケビエヤクシ

右四味等分盛淨鍋別置重湯漬鍋底令溫暖透  
徹候和變而以抵脚攪勻膏成矣○諸瘡結毒膿  
孔深還日曠不愈以嫩綿糸繫捻眉鐵針樣捏此膏  
紐入孔内膿毒墮去肌肉墮生最為妙毒輕者一日  
一換重者換數次○瘡口畔開或作穴巢或作白四邊  
流傳侵蝕不止以綿糸束如棋子大捏此膏放入瘡  
内重疊滿肌表將イニクアニトハシリコシ攤布封貼不  
日而口王回天之驗神效不可測也  
○イニクアニトテキステイヒ  
主治與エニハラストテニスイブン同此方專治カ鍊損傷



ヲトリテシメニテイナ 二十五兩 ケールワス  
ヲトリローザ 各五兩 ヘツタアレヲヒイ 二個  
石四味煎火化

メラ ヲリハヌニ 各二錢

ニ味爲細末下之タイラセゲラアタリ許加亦可

○又方

チレメニテイナ 二十五兩 マステキス 三錢

ヲトリローザ 五兩 ヘツタアレヲヒイ 二錢

ウエツテワス 七兩半 ヲリハヌニ

メラ 各三錢

右煎煉如上法

○イニクエニトヒグーテ

性熱

鼠瘻瘰癧在頸項取散定淫不定疼癰氣之瘻  
累年在身推戰總無三應者並効折傷白脫筋縮  
取系急不問老少遠近一吹得即安

ハルス 三十四 刀子 一ツ 屑末 三兩

カリヨツヘルサゲレニ 屑末 六兩 ヲリカラフス 二十

ヲトリレスホニス 七兩半 ワス 六兩

右用火化開一末於冷後下之如常法○開筋折  
傷大骨白脫肩痛悶亂先將密綿單帶縛定患處



銅盤盛無灰好酒極火煎沸頻々淋滌患上病又漸  
覺溫熱透肌裏即解去綿帶酒氣未退時以拂棍  
挑起此膏月急摩塗患處後將新布帶緊繫帶而札  
定連日或隔日換之如前方戒病夫遇風寒食生冷  
或以冷水洗頭面手足

○イニクエニトマニヤ

性寒

治無名腫瘍諸般結核瘤贅肉龜黃此癰疽  
等症敗血紫壓黑痣疔目並傳之效

ヲリリカラフス

二錢半

ハルス

一錢半

右煎化濾去渣

アルカンテヘイヒイ

三錢

右入磁器以蠟油塗乳搽頭頻乳令至不見星與上  
藥碾和再煎煉收貯密器經三四日

ヲリハスニ

五分

右烏 細末加

○イニクエニトカウイノリヨ

治墮扑損傷小兒疔瘡或手掌乾疥等

ハリーナケールホーム

スツパール

トロムスーリ

各錢

ヲリリカラフス

冬夏  
隨宜

右無灰酒拌調塗患上



○イニクエニトハリニヤ

消痰定痛散塊生肌

ヲリリカラフス

ワス

フラニタコ

右三味等分煉和成膏

○イニクエニトクレベイン

治筋攀骨痛不能動作者不拘歲月遠近不論  
内外所因絕薰方而敷之神功

ニス子ナ

一條

ヲリリカラフス

ワス

各一

右三味收八淨鍋固封其口將系濕火縮之筋花  
一周時筋要火力無剛系且重封其鍋勿令烟氣

透泄煎終下火候鍋冷漉去滓○筋内骨疼痛

不能屈伸先用良品沈香薰患處以衣籠衣其外

戒露遇風氣水氣良久肉裏覺暖急心桃此膏搽

患上以木綿帙帶卷定今薰蒸之氣泄誠病去

食冷物居夾凉頭處以水洗頭面○丹傷新愈後

筋縮拘急者治上同○諸痔脫肛番化者敷之

○脚病愈後不能起座者失枕難回顧者並敷之

奇效

○イニクエニトクレベイン

治因風熱腫起者一切腫毒腫脹前腫後俱效



ハルス 一錢半 セイライフ 一錢

ホルホル フーリリスホニス 各五兩

フーリリカラフス 一兩 フムテレメニテイナ 三兩

右煉化如常法

○又方

フーリリカラフス 三斤 フーリハヌニ

アキワキヤホルコ 各一斤 ワス

コロクヌフーリアニクーリ 各三斤

○イニクエニトフラコ

專治浸淫肥瘡及疥瘡蝕爛日久不愈者

セイライフ 三兩 セルサ 三兩

フーリフーニゲル フーリカラフス

フーリロトサ フーリスホニス 各五錢

○ホル子ルカコフラ 二錢

右煎煉如常法加輕粉 五錢 赤隼

○イニクエニトハクキヤ

治牛馬瘋犬猫鼠所傷及湯瀝火傷

フーリリカラフス フーリホコヘツチ

○フーリリウイニトヘルケコ

石等令變化以鷄翎塗止痛處○一方ケルワス



三西加

○イニクエトドロウベ

消腫毒極膿疔定疼痛完臭口

ヲリリホフハツス 十五西 ハルス 五西

○セルトサ 七西半 カルフラ 二西

右之煎煉如常法

○又方 迦東和蘭人傳此方長崎之民俗專

治折傷階土什金銀刃陽頭喊痛楚房妙之俗呼  
名ニキ四時謂其切速也

アキリキヤホルフ 十四 小ハルス 二十五西

セルーサ カニフラ 各十四

石剪化用嫩綿布縱橫方寸許裂開蘸入藥中  
上火徐徐煮熟於冷隨用以抵脚挑取頰而傳  
之患心大者聳身開而繕完傳之

○イニクエニアキリヤ

桃膿核癩

ホニクス 絞取汁五合 ヲリリカラフス

アキリキヤホルフ 各五西 ヒツトリヨール

マルイニ 各二錢 ワス 十三西半

ヲリリレスホニス



煎煉如常法

○イニクアニトメリロート

性主治樂アコラフトメリロート同

スニツメロート 十兩 フロリスカモル

フロリスラリイ子 フロリス(ニキレイセス

ラトテキスサルテイヤ ラコカ子一ラ 各三錢

アモニヤクニ コムテシメコテイナ 各二兩半

ヲリリホコヘウテ ハルス

セイモニサイイ子 各三錢 ワス 十兩

マロークスゾリエニタール 五錢

ヲトリヘルヘイ子 五兩

石用醜陀酒 十錢 陳之アコラフト之法可照見  
而陳之

○イニクアニトヲリリウニ

性温

消結核治瘰癧

ギールワス 十兩 ラリハ又ニ 二兩半

コムテシメコテイナ 五兩 ハルス 二兩半

ホルホル 五錢 ヲリリレスホニス 十兩

煎煉如常法

○イニクアニトステベクニ

性冷



治結核乳腫諸痛癰毒遠年難治者良便方也

ウーリシスホニス へルソラアトロニ 各三十四

ラエツテワス 三十四 セルサ 五十四

ワラニトロート 二十四 ホコシイキス 五十四

右煎煉如常法○口傷或脱皮破腫加モミイ少傳之頭生肌為妙

○又方

ウーリハルスロリー 五十四 ケーニワス 十三十四

トウミヤ 細末 赤口ミイ 細末 各三十四

ウーリワス子 五十四

右煎煉如常法投細末

○イニクアエトロフトウリニ

アルホレトマスケイマアター 一錢 コルホトニヤ

ロサーロニカアル 五分 ケシモタツトシイ

アセイテホルトカル 各二合スハニスクルウニ 五合

煎煉如常法

○又方

ウストルニケルフラニト 七ツトルヨールニ



フレイスピトル

石研合傳結腫瘡頭頰腫為妙

○イコクエニトエーニイ

ヒリイト

性温

治折傷損傷力骨傷骨碎筋断大肉難斂者

ウトリリスホコス

三四半

ウリノ又コ

ウエニテニト

一錢

ウキスキヤコス

毛五分

タルウメイル

一分

右煎煉盛貯磁器常埋地中隨用挑出

○イコクエニトウツフヤーク

大瘡割開代針之膏也

ラータクムヲツフヤーク

右用清水煎開

セイモココスタマメ

コルトセスマニラコーク

セイモココシヘステセイ

各二錢

右三味細末投入煎茶汁中煎煉膏成矣○諸般  
腫瘍之膿已成者先按瘡頭膿口之處將此膏黑  
豆大許貼在其處別用攤膏兩後之經一茶時放  
去以銀鍼刺其膏之蹟更益知痛痒者為大  
妙或割如肉割附骨皆膏日後下鍼



本方三十二方

同銘十四方

追加十四方

通計六十六方

秘笈及仙丹方卷中終

秘笈及仙丹方卷下

桂川氏家方

○ラフメント三部

○コムラフメント

治癩疽發背乳癰衝疽一切無名潰瘍或天泡  
楊梅翻化度歲或結痲瘋癩瘡小兒胎熱婦人陰瘡  
癩瘡及疔或火丹發悶赤癩搔爬通體無完膚  
者凡膿毒浸淫不止者勿心經滯淋一次則其痛痒  
頓如失此方洗膏中至寶也



コムアルライ コムラリハスニ コムメウ

右三味各十錢 爲細末 將清水一斤 煎取七合 濾過 去滓 加良品 琉産之燒酎 二合 收貯 密器 〇膿瘡 甚者 イニクエト 丑ケヒニヤクニ 芽分 研合 合瘡 内子 〇ヒニヤクニ 主治 可照 見

〇スチニラフメト

治膿瘡

〇カニフラ 〇ウノメ スニスクルウ

右三味 各二兩 烏末 米醋 八錢 燒酎 百錢 水 百五錢

俱置 沸至半 減濾 去渣 將嫩綿布 洗淨 患處

後別用 淨布 二層 蘸入 藥中 兩覆 去上 緊凡 是日 換敷 次設 苦覺 瘡上 乾燥 作痛 則用 〇至ト 丑ラトム 慢火 焙過 乘温 而塗之

〇又方

膿瘡 良方 也 寶曆 九年 春 國訓 詔問 瘡 醫 局 定 此方

ワロトリスカモ花 公兩 セイネリイ子 二兩

イホトシ 四十個 カツヒスホロウリヨニ

シメニテ 各四兩

右細剉 額 爲九割 每割 水七合 煎取 各洗淨



患處

○ホーフトミキユルラフメント

頭上毒瘡小兒胎毒松皮爛瘡等洗方也身體諸般濕爛肥瘡楊梅瘡癬乃疥瘡陰蝕膿穢浸淫者宜治

了儿トミイニ

ラルトロハニカルムス

ラルトロハニカルムス

フロリスカモメル

カウヘリスホロリウニ

フウニタケ

フシールサニフイニ

セロホニコス

ナニ西半

石ナ味収咀用清水一斗煎取五升濾去渣

カルフヒイリ ナニ西半 アルイニ 五西

スアールフル セ西半 ヒツトルヨトルニニ西半

右四味屠細末加入上葉煎汁再上武火候而沸一

治下火綿布浸入洗條患處後別用淨布二層蘸

藥中覆貼瘡上

○フロートニラフメント

陰囊濕痒常出黃汁隨抓破而滋開腫起者神效

アルトミイニ

フウニタケ



ヲルトロハニカルムス

フシアルサニファイニ

アキリモトニヤ

フロリスカモメル

フロリスロサイセ

タウヤク

ホニコス

石丸味洗淨去土細剉 各等分 水煎減半 濾去渣

アルイニ

右三味細末加〇上皮剥脱者イニテトニヤルテイヤイニク

エトトエラトム搽擦

〇デレベルラフメトトニヤルテイヤイニク

膿血淋病馬口陰節温痒或瘡者并治

アルイニ 各二錢

ヒツトルヨールニ 三分 ホー又キ 一匙

右石脂房細末好茶ナ西 沸湯五合俱拌合將細密

絹巾濾去濁用射蜜管管突入溺道日ニ夜ニ次血

淋症淋俱知也

〇セールメスラフメトト

治下疳陰蝕妬精瘡

アルイニ 各二兩半

ヒツトルヨールニ 二錢



カニワラ 五分

石五味 細末

ワラニタノロ

石鏡取汁與上葉拌勻用微火令溫暖洗患上

○又方

ヲリテキスルウス

カツヘリスホロリウ

フラーテルタラテ

各十匙 將清水 二斗

アノイコ

五錢

剪至半 瀉去滓

為細末如頻洗患處

○正之へイアエラフメト

治諸瘡寶曆七年春 變殿傳之

ヲトロヒキイ十 五匙

ラーテキストレラフ 五匙

右次啞用清水一升 各 煎取一升

アノイコ

為細末加入用乾海苔把煎藥中 煎患處

○龍津湯

諸瘡通用洗滌方也 去膿定痛 復日時之沐浴則



痲痺暑疹汗斑之屬不生為妙此方二世法服國華  
公相所立也

龍膽

苦辛

各五斤

忍冬

苦寒

各三斤半

當歸

三斤五兩

右以咀頰十錢為一劑清水十碗煎取七碗洗患處

○膿癬浸淫者加枯礬各少許○好即瘰癧骨痛加燒耐

○蓬萊百花湯

治第聳骨痛不能轉側或老人遠年墮什作痛  
手脚腰間冷痛每刀或婦人新產後乳脈未通結

腫疼痛寒熱交至者

荆芥

三兩

防風 四兩

菊花

茴香

肉桂

良姜 各二兩

石炭咀頰為十帖每帖水七合煎取五合良鹽酒粕  
各一匙投入氣溫耐患處石寶曆八年

國訓新制衣

本方六方

同銘一方

追加四方



通計十一方

瘡家要誠十首

其一

功業從來濟世術醫非和平曷逮人好事多言  
最多破默誠默通努力保真

其二

聖經萬古吾道存儒理未明擬何說言行心手多  
不全暗見病夫係大析

其三

人世今古物自樛渴液鍼砭復幾分瘡瘍論來

症益衆當時誰值關將軍

其四

老工先進常請益舉症尋方苦採摭夙夜提搨  
謹勿懈連城磨出他山石

其五

疾病苦來遇相迎洗膏收貯先期逝鮮明僕  
車何所關咸是路傍覓名勢

其六

瘡痍元來有邪疾直視直斷自精明虛實陰  
陽既肥瘦診察不決爭回生



其七

病支榻前親偶坐問切內外孽根因慙懃施治  
須殫力豈擇賢患貴與賤

其八

前醫前藥謹勿譏巫祝復堪慰哀朽譏人不歇  
人譏吾御血唾人先污口

其九

傳來藥品常必擇縱非日用弘濟爾持臨治倉卒  
需不得疣痂爭奏復元劑

平昔唯惜讀書暇勿為讌遊消日來嚴避賭博

雞群輩素問勞國工方

右十章以直言述之故辭簡

心易時久通讀謹勿忽焉

寶曆十二年夏六月

待御殿官三也桂川甫三

國訓父識



區隱又書

前明... 三... 人...

... 感... 念...

... 國...

平昔... 題... 日... 極... 觀...



昔年源遠  
承流  
此日  
承流  
師古  
亦